



—山陰と世界を結び
地域に貢献する
現代の寺小屋—



R5年2月にインド国より頂戴したガネーシャ像

団体の活動、セールスポイント

●中村元博士と中村元記念館

中村元博士(1912-1999)は、島根県松江市殿町出身の哲学者です。中村博士の業績はインド哲学や仏教学の研究を中心として論文著作は1500点にも及び、平成元年には「東洋思想研究の世界的権威」として松江名誉市民の称号を贈られました。博士は、それまで漢文からの翻訳でなされていた仏教研究を、よりブッダの時代に近い古代インドの記録にまで遡り、歴史上の人物としてのブッダの実像を明らかにされました。また博士は、ブッダについて後の時代に作られた宗教的な神話や伝説を取り除き、「人がどのように生きるべきか」を説いたブッダの言葉を、より多くの人に向けて、わかりやすい日本語に翻訳されました。また世界平和に向けた願いから、異なる文化を理解する必要性を説き、比較思想という日本では前例のない新しい学問分野を開拓されました。現在においても戦後日本を代表する学者の1人とされています。

中村元記念館は博士の生誕百年を節目として、2012年に開館いたしました。博士の3万冊を超える蔵書の一部や、手書きの原稿、愛用品などを展示公開し、博士の故郷である松江市民の皆様をはじめとして、博士をより知りたいと思う皆様の憩いの場を提供しております。



寄附を受けて取り組みたい事業 これまでに寄附を活用して実施した事業

●中村元博士の蔵書・資料の整理

中村元記念館には、博士のご遺族から寄贈された約34,000冊の蔵書の他にも、原稿や書簡、写真や手帳・日記などといった博士の膨大な資料や遺品を保存しています。記念館では、より多くの方に博士の業績を知ってもらいたい、また、東洋思想文化の研究と普及、学術研究に寄与することを目的として、これらの資料や遺品の登録管理を進めています。

収蔵品管理システムを用いた登録作業では、資料の名前や保管場所を登録するだけでなく、博士独自の分類秩序や、資料の原配列を尊重した登録管理を行っております。整理された資料は、記念館企画展示や、書籍発行等で広く一般に公開しています。



●資料を用いた企画展の開催

収蔵品展『中村元博士の著作ができるまで』
展示期間:2023年10月3日~12月27日

記念館収蔵の「佛教語大辞典」「論理の構造」などの代表的著作と、自筆原稿(初公開)を併せて展示し、書籍の完成までの道のりをたどる展示を行いました。博士が原稿作成の時間を短縮するために使用していた「切抜用」と書かれた書籍の展示には「これぞ本物のカット&ペースト!」「エピソードは知っていたけど、実際に見たのは初めて」と多くの反応が寄せられました。



団体の目標

- ① 「東洋思想研究の世界的権威」として松江名誉市民を贈られた中村元博士を顕彰し、その業績を蔵書・愛用品などを通じ、多くの皆様に知っていただくことを目標としています。
- ② 松江市に寄贈された博士の蔵書約34,000冊を、散逸させることなく次の時代に伝えるため、時代に合わせ適切に管理します。
- ③ 歴史的人物としての博士の姿を知っていただくべく、博士の遺された直筆原稿、手記などから、博士ご自身の人・思想についての研究を進めます。
- ④ 戦後日本を代表する学者として博士が開拓された、インド哲学、仏教学、比較思想、歴史、文学などを中心として公開講座・講演会などを実施いたします。
- ⑤ 博士がご自身の研究に託された「世界平和」について学問を通じて考えていきます。



特定非営利活動法人
中村元記念館東洋思想文化研究所

理事長 清水谷 圭

〒690-1404

島根県松江市八束町波入 2060 番地

松江市八束支所2F

TEL 0852-76-9593 FAX 0852-76-9693

info@nakamura-hajime-memorialhall.or.jp

<https://www.nakamura-hajime-memorialhall.or.jp/>

団体から寄附者へのPR

皆様からの多大なご支援により、博士の蔵書三万四千冊のデータ登録作業については、今年度で大きな作業の一区切りを迎える見込みです。今後は蔵書の継続的な保存と活用、蔵書以外の収蔵品の整理と登録に力を入れて進めていく所存です。収蔵品の中には、未だ世に出ていない録音テープ(五百近く)等もあり、それらの収蔵品は、企画展示の他、データ化してホームページに公開、研究者のご指導の下、冊子化も検討してまいります。

大切な資料は膨大にあり、資料保存のための保存箱や中性紙などの資材はまだ必要です。皆様の更なるご支援をお待ちしております。